



# 京大広報

No. 630

2008.1



ホームカミングデーでの中谷加奈さんによるヴァイオリンの演奏  
—関連記事 本文2523ページ—

## 目次

新しい年を迎えて	総長 尾池和夫	2520	鍋島陽一医学研究科教授が武田医学賞を受賞	2529
〈大学の動き〉			医学教育等関係業務功労者の表彰	2530
新年名刺交換会		2521	〈日誌〉	2531
平成20年度大学入学者選抜大学入試センター			〈話題〉	
試験の実施		2522	「第1回京都・先端ナノテクスクール」&	
平成20年度入学者選抜学力試験			「第8回ナノ工学セミナー」ジョイント	
(第2次学力検査等)の実施日程		2522	フォーラムを開催	2531
第2回京都大学ホームカミングデーを開催		2523	テクノ愛'07を開催	2532
本部消防訓練を実施		2523	第107回化学研究所研究発表会を開催	2532
自衛消防団員に感謝状を贈呈		2524	能楽鑑賞会を開催	2533
部局長の交替等		2524	〈計報〉	2534
〈寸言〉			〈お知らせ〉	
正々堂々	宮原賢次	2525	高等教育研究開発推進センター第77回公開研究会	
〈随想〉			専門教育との連携を目指した大学英語教育	
京都と東京	名誉教授 村松岐夫	2526	—ESPの研究成果に基づいて—	2536
〈洛書〉			〈隔地施設紹介〉	
私の分岐点	今堀 博	2527	フィールド科学教育研究センター徳山試験地	
〈栄誉〉			・北白川試験地	2537
松本 紘名誉教授(理事・副学長)、佐和隆光名誉教授				
が紫綬褒章を受章		2528		

京都大学広報センター

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

## 隔地施設 紹介



### フィールド科学教育研究センター 徳山試験地 (<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/toku/>)



上空から見た徳山試験地

**沿革** 徳山試験地の前身は、1931年徳山町遠石にあった町有林(36.2ha)の寄附によって設置された農学部の徳山砂防演習地です。この演習地は海軍省との所管換えにより、1942年に隣接の旧試験地(徳山市東山：周南緑地西緑地)に移転し、所属も農学部から演習林になり徳山試験地と改称されました。さらに、1966年、徳山市の緑化公園事業に伴い、現在地(42.6ha)に再移転し、南端の一部を山陽自動車道用地に売却して、現在(41.9ha)に至っています。

#### 職員構成

教員 1 人、技術職員 1 人、非常勤職員 2 人

**環境** 徳山試験地は徳山市街地北側に連なる丘陵地にあり、標高は102～351mです。地形は東西の二つの尾根の間に南北方向の比較的緩やかな谷部があり、この凹地部分を除いて急傾斜地が多く、西の尾根の西側は国道315号線が通る大きな谷になっています。地質は中生代三畳紀の周防変成岩(三郡変成岩に属す)類からなり、基岩の大部分は強度の変成作用を受けた塩基性

(緑色)片岩で、土壌は比較的深く、やや乾燥しています。冬季の積雪はほとんどなく、早春と夏季には乾燥が著しく、年平均気温15.2℃と温暖ですが、年降水量1,911mmは瀬戸内海式気候としてはかなり多いほうです。

**森林** 徳山試験地の森林の潜在植生は、タブノキ、シイ、カシ類、クロキなどから構成される暖温帯常緑広葉樹林(照葉樹林)で、現在も面積の約半分(18.8ha)は天然生林となっています。しかしながら、都市近郊に位置し、これまで薪炭林等として頻繁に人為的な攪乱を受けてきた経緯があり、30年前までは、常緑針葉樹のアカマツや落葉広葉樹のコナラ、クヌギ、ヤマザクラなどの陽樹を多数(約半分)混じえた植生となっていました。ところが、近年、アカマツがマツクイムシの被害を受け、その大半が枯死した結果、照葉樹林への遷移が進んでいるところが多くなっています。

一方、残りの約半分(20.6ha)は、ヒノキとスギを主とする人工林です。その中には、所管換以前に植栽された50～80年生のヒノキ林9.8haも含まれています。その他に、スギの16地方品種を集めた見本林や病虫害に対するマツ属の抵抗性実験林の枯損跡地に導入した広葉樹(ケヤキ、クヌギ、ウバメガシ)植栽林があります。事務所入口から苗畑にかけての道路沿いには、見本園として国内外の緑化樹種を植栽展示しています。**教育と研究** 演習林所属となった後は、定期的な実習は行われていませんでしたが、フィールド科学教育研究センターに改組になったのを契機として、全学共通科目のポケット・ゼミが開講されるようになりました。現在は一時中断しているものの、瀬戸内地域に所在する京都大学の数少ない施設として、教育に活用するための教育プログラムを検討しています。



徳山試験地でのポケット・ゼミ

天然生二次林の遷移過程を把握するための調査区が1972年には設定され、30年以上継続調査されています。一方、近年における檜皮などの文化財修復用資材の不足という社会的背景と、所管換以前に植栽された高齢ヒノキ林が存在したことから、文化庁による資材確保のための研究に協力し、基礎的研究に取り組み始めました。1998年からは檜皮の採取が生立木の成長や材質に及ぼす影響を調べるために、「檜皮材剥皮実験林」の継続調査が行われており、2007年度には文化庁が推進する「ふるさと文化財の森」(文化財のための備林)の設定に向けての協議を開始しています。その他、暖温帯域における新たな森林再生管理法の開発を目的に、基礎的・総合的な調査・研究に取り組んでいます。

#### 連絡先

〒745-0851 山口県周南市徳山鉢窪769  
TEL: 0834-21-7120 FAX: 0834-21-7121  
<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/toku/>

#### アクセス

・山陽新幹線・山陽本線徳山駅から、防長バス・高尾団地行き乗車(20分)、高尾団地地下車のちに徒歩10分。徳山駅からタクシーで20分。



## 北白川試験地 (<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/sira/>)



旧演習林本部建物

北白川試験地は京都大学フィールド科学教育研究センターに所属する前には、本部試験地と呼称されていました。1924年に創設された当時から、見本林および樹木識別実習を目的としての各種樹種がそろえられてきました。

試験地の構内は結構広く、北部キャンパスの北東部にある通用門から始まり北縁を西へ向かって西端に至り、さらに旧馬場の近くまで縁を南下する箇所まで各種の樹種が植栽されています。この北東部通用門から旧馬場近くまで達する縁辺には、我が国の北辺に生息する樹種から始まって照葉樹に至るまで、各種の樹木が植えられています。

これ以外にも旧演習林の建屋の周辺と北側には、外国産樹種を中心として巨大な樹木が現在も植栽されています。ただ、最近の問題としては、巨大化した樹木が倒れる危険性が生じてきたことです。この典型的な例は、8年前の台風接近後に起こった、テーダ松の倒壊です。台風通過後の午前中、旧演習林建屋の東にあったテーダ松が構内道路を越えて東側に倒れ、道路の反対側に植栽されていたウツクシマツ(天然記念物で滋賀県の信楽にしかなく、根元から枝分かれし、直立しない松)が下敷きになったばかりか、道路脇に駐車していた車二台がペシャンコになる事件が発生しました。幸い、怪我人はなかったのですが、これ以降倒壊する危険性のある巨大化した樹種の危険を回避する方法を検討しています。

北部構内北側の民家に隣接する見本林では、民家が被陰されて日当たりが悪くなり、倒壊時には家屋自体が損壊することが予測されるために、今後も注意して樹高の高い樹木については頭頂部の切り落としや、古い枝を除去して風当たりの抵抗を減らす努力を行わなければなりません。

これに加えて、見本林の樹木が高くなると、樹木識別が難しくなるために、低木化を目指さねばならないという必要性も生じています。

試験地の役割としては、樹木識別実習のような学習目的以外にも、構内の見本林の整備に伴って、緑が多い場所を本学構成員に提供するという、保養の意義も増大しつつあります。構内には小さな円形の池も配置されており、昼食時にはお弁当を広げてくつろぐ風景もよく見られます。この意味では近隣の市民に対しても散策の便宜を与えています。

試験地構内でもっとも有名なのは旧演習林の建屋南側にある枝垂れ桜で、北部構内にある桜の中では春一番遅くに咲き、前庭が芝生であることもあってか、毎年賑やかな宴会が開花期間中を通じて開かれます。近年この枝垂れ桜が衰弱傾向にあることがわかり、いろんな手だてを講じてきましたが、樹勢の衰えはサルノコシカケの発生を見るに至って決定的になってきました。おそらく内部には木部が腐敗した空洞がすでに発生しているものと思われ、樹木医に手当を依頼するところまで来てしまいました。

本年春から、知る人ぞ知る話題として、アオバズクが営巣し育雛にまで至ったことがあげられます。アオバズクが雛を育て上げられたことは、営巣・育雛に安全であり、なおかつ餌が豊富に提供できるほど、市内では珍しい環境を備えるまでに至ったという事実です。今後も、こうした環境整備に努力を傾けるべきであると考えています。

### 職員構成

教員 2 人、技術職員 3 人、  
非常勤職員 1 人

### 連絡先

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
TEL: 075-753-6457 FAX: 075-753-2264  
<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/sira/>

### アクセス

・市バス京大農学部前、田中樋ノ口町、北白川小倉町の各停留所から徒歩 5 分。